

☆紀南病院 研修医通信

Vol.151 2025年6月

私はこの6月、三重県紀南病院で1か月間の地域医療研修を行いました。普段は市立四日市病院という都市部の急性期病院で研修しており、今回の紀南での研修はこれまでに経験できなかった多くの学びに満ちた貴重な機会となりました。

特に印象深かったのは「あたわ在宅診療所」での訪問診療です。通院が困難な患者さんの自宅を訪問し、生活環境に踏み込んだ上で慢性疾患の管理や服薬指導を行う姿勢に、地域医療の本質を強く感じました。限られた医療資源の中でも、「その人らしい生活」を支える丁寧な医療が実践されていることに心を打たれました。

また紀南病院の内科研修では、救急外来で診察した患者さんを、入院から退院まで一貫して診ることができました。じっくりと一人ひとりに向き合い、治療により病態が改善していく過程を患者さんとともに喜び合えた経験は、今後の診療において大きな支えとなると確信しています。

この1か月の研修は、「自分がこれからどのような医療をしていきたいのか」を見つめ直す貴重な機会となりました。急性期から慢性期、そして在宅療養に至るまで、患者さんの生活全体を見据え、その都度求められる役割を果たせる医師を目指して、今後も研鑽を重ねていきたいと思えます。ご指導いただいた先生方、病院スタッフの皆さま、そして北出先生、この1か月間本当にありがとうございました。

市立四日市病院 松田 卓也



紀南病院 研修医通信

Vol.151 2025年6月

6月に紀南病院で1ヶ月間研修させていただきました。海と山に囲まれた地域で、ご飯も美味しく、とても充実した生活を送ることができました。

紀南病院での地域医療研修では、患者さんと職員さんとの距離が近く、温かい信頼関係の中で医療が行われていたことが印象に残りました。また相野谷診療所の森本先生の外来研修では、丁寧なコミュニケーションが時に検査値以上に鋭敏に病態を捉える手がかりとなることを実感し、感銘を受けました。

地域に密着した医療の実際を体験できたことは貴重であり、限られた資源の中でも柔軟に対応されている先生方から、総合診療の姿勢を学ぶことができました。

今後は、患者さんの語りを引き出す力をさらに高め、背景や価値観も含めた全人的な診療を心がけていきたいと考えています。1ヶ月間という短い間でしたが、ご指導していた先生方、病院職員の方々、本当にありがとうございました。

鈴鹿中央総合病院 沼口弘生



紀南病院 研修医通信 Vol.151 (2025年5-6月)



紀南病院での1ヶ月間の地域医療研修は、これまでの研修では経験できなかった学びと出会いにあふれていました。外来や救急での対応に加え、訪問診療や地域住民の方々との関わりを通して、“地域に根ざした医療”のあり方を深く体感することができました。

特に印象に残っているのは、スタッフの皆さんの温かい雰囲気と、患者さんからいただいた「若い人が来てくれて嬉しい」といった素直な言葉です。医学的知識だけでなく、信頼関係の大切さを改めて実感しました。

オフの時間には、近隣エリアの魅力にもたくさん触れることができました。陶芸体験で自分だけの器を作ったり、夕暮れの海でカヤックを楽しんだり、少し足を伸ばして世界遺産の「つぼ湯」や熊野本宮大社を訪れたり、この地域全体が持つ自然や文化の豊かさに感動する日々でした。

この1ヶ月間で得た経験は、今後の医師人生においても大切な糧になると確信しています。紀南病院の先生方・スタッフの皆様、そして地域の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

東京大学医学部附属病院 金崎あや

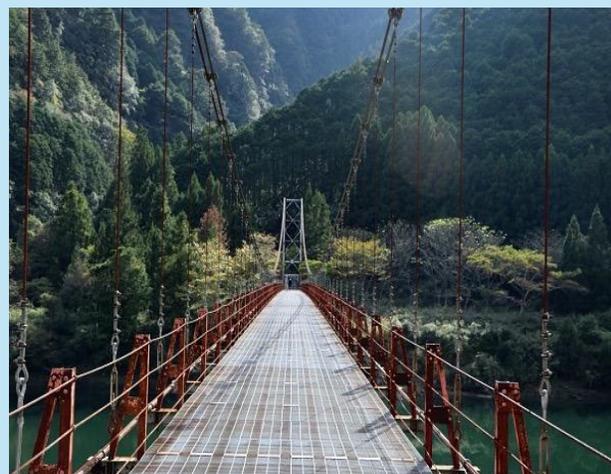


紀南病院 研修医通信 Vol.151 2025年6月



地域医療研修において紀南病院、神島診療所、北山村診療所で研修をさせていただきました。この度は貴重な学びの機会をいただき、心より感謝申し上げます。限られた診療科、医療資源の中で、住民一人ひとりに丁寧に向き合う医療スタッフの姿勢に強く感銘を受けました。

特に、医療だけでなく生活背景や地域特性を理解したうえでの対応が求められることを実感し、患者さんとの関係性の大切さを改めて認識しました。また、地域全体で健康を支える連携の重要性を学び、今後の医師としての在り方に大きな影響を受けました。今回の経験を今後の臨床実習や医師としてのキャリアに活かし、どのような環境でも柔軟に対応できる力を養っていきたいと思います。ご指導いただいた先生方、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



済生会松阪総合病院 横山凌大

